

科目名	臨床薬理学 Clinical Pharmacology
授業形態	講義・演習
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春BC学期 金曜 1・2時限
場所	共同利用棟B107
単位数	2単位
担当教員名	柴山大賀 Shibayama Taiga 本間真人 Honma Masato 森千鶴 Mori Chizuru 阿部吉樹 Abe Yoshiki 菅谷智一 Sugaya Tomokazu
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	なし
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めませんが、下記に連絡・調整したうえで訪問すること taiga@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1) 薬物動態と薬力学の原理原則を理解し、与薬と服薬管理に必要な知識を理解できる (2) 医薬品添付文書にある内容を理解した上で、患者への処方内容を理解できる (3) 代表的な薬物療法について薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング方法について説明できる (4) 代表的な薬物療法を受ける患者の生活調整や回復力の促進、服薬管理能力向上を図るために必要な知識を身につけ、具体的な援助方法を立案できる
他の授業科目との関連	なし
履修条件	なし
授業概要	緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識と技術を習得する
キーワード	薬物動態、薬理作用、服薬管理
授業計画	01. (e-learning) 総論①薬物動態と薬力学 02. (e-learning) 総論②薬物処方上の留意点と調整 03. (e-learning) 総論③薬物の与薬と服薬管理 04. (e-learning) 各論①呼吸器系の薬物療法 05. (e-learning) 各論②循環器系の薬物療法 06. (e-learning) 各論③消化器系の薬物療法 07. (e-learning) 各論④代謝異常と薬物療法 08. (e-learning) 各論⑤感染症の薬物療法 09. (e-learning) 各論⑥自己免疫異常と薬物療法 10. (e-learning) 各論⑦神経疾患系の薬物療法 11. (e-learning) 各論⑧腎障害者への薬物療法 12. (e-learning) 各論⑨精神疾患系の薬物療法 13. (7月05日) 総論④薬物動態と薬力学の理解とその応用Ⅰ(医薬品添付文書を題材に)(本間真人) 14. (7月05日) 総論⑤薬物動態と薬力学の理解とその応用Ⅱ(医薬品添付文書を題材に)(本間真人) 15. (7月12日) 医薬品添付文書に基づいた薬剤使用の判断と患者モニタリング法Ⅰ(阿部吉樹) 16. (7月12日) 医薬品添付文書に基づいた薬剤使用の判断と患者モニタリング法Ⅱ(阿部吉樹) 17. (7月26日) 代表的な薬物療法の薬理作用と患者反応Ⅰ(柴山大賀) 18. (7月26日) 代表的な薬物療法の薬理作用と患者反応Ⅱ(柴山大賀) 19. (8月02日) 代表的な薬物療法を受ける患者の服薬管理と生活調整Ⅰ(森千鶴・菅谷智一) 20. (8月02日) 代表的な薬物療法を受ける患者の服薬管理と生活調整Ⅱ(森千鶴・菅谷智一) 8月9日は予備日とする。 ※13回の授業までに1～12回の視聴を済ませる。 ※15回以降は、履修者は各テーマに沿ったプレゼンテーションを行う。具体的な課題は1週間前までに提示する。
学修時間の割り当て及び授業 外における学修方法	e-learning (60%) 講義 (10%) 演習(30%) 1～12は「がんプロ全国e-learningクラウド」の「臨床薬理学」による。事前に聴講登録を済ませ、内容を理解できるまで視聴すること。 http://kanto-kokusai-ganpro.md.tsukuba.ac.jp/
成績評価方法	下記の基準の両方を満たすことで合格とする。 (1) 14コマ以上の出席。 (2) プレゼンテーション(40点)とレポート(60点)の評価を合わせた最終評点で60点以上をとる。 <プレゼンテーションについて> 15～20で行う学生各自のプレゼン内容を以下の配点で評価する。 A～A+=十分な根拠資料に基づいた説明がなされ、論理的な一貫性と十分な説得力がある。 B=一定の根拠資料に基づいた説明がなされ、一定の説得力がある。 C=根拠資料の提示に不足があり説得力を欠いているが、理解可能である。 D=説得力がなく理解不能な内容である。あるいは欠席した場合。 ・Aのうち特に優れたものをA+とする。 ・A+=95, A=85, B=75, C=65, D=0と数値化し、3回分の平均を40点満点に換算した得点をプレゼンテーションの評価とする。

	<p><レポートについて> レポート課題: 特定の薬剤を具体例に挙げながら、臨床薬理学的な視点に基づく患者の服薬管理と生活調整に対する看護支援(薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上、等)について考察し、Wordファイル(枚数自由)でmanaba上に提出する。</p> <p>レポートの評価項目</p> <p>(1)薬物動態と薬力学の原理原則 A~A+: 薬物動態と薬力学の原理原則が、適切な引用文献を用いながらわかりやすく説明されている B: 薬物動態と薬力学の原理原則が、引用文献を用いながら説明されている C: 薬物動態と薬力学の原理原則が、引用文献を用いずに説明されている D: 薬物動態と薬力学の原理原則が、説明されていない</p> <p>(2)薬剤の服薬管理と生活調整上の課題 A~A+: 取り上げた薬剤の服薬管理と生活調整上の課題について、適切な引用文献を用いながら十分な説得力を持って説明されている B: 取り上げた薬剤の服薬管理と生活調整上の課題について、引用文献を用いながら一定の説得力を持って説明されている C: 取り上げた薬剤の服薬管理と生活調整上の課題について、引用文献を用いずに説明されている D: 取り上げた薬剤の服薬管理と生活調整上の課題について、説明されていない</p> <p>(3)上記(2)で挙げた課題に対する看護支援 A~A+: 課題に対する具体的な看護支援について、適切な引用文献を用いながら十分な説得力を持って説明されている B: 課題に対する具体的な看護支援について、引用文献を用いながら一定の説得力を持って説明されている C: 課題に対する具体的な看護支援について、引用文献を用いずに説明されている D: 課題に対する具体的な看護支援について、説明されていない</p> <p>・Aのうち特に優れたものをA+とする。 ・評価項目(1):(2):(3)を1:1:2のウエイトで、それぞれA+=95、A=85、B=75、C=65、D=0と数値化して60点満点に換算</p>
<p>教材・参考文献・配布資料等 その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)</p>	<p>指定しない 専門看護師が修得すべき3P科目のひとつです。専門看護師を目指す学生に限らず、看護の高度実践に関心のある学生に授業への積極的な参加を期待します。学生同士で活発に討議を行えるよう、プレゼンテーションの準備は入念に行ってください。 CNS共通科目B 関東がん専門医療人養成プログラム開講科目</p>